

# ラオスの こども通信



発行：(認定)特定非営利活動法人 ラオスのこども

- 緊迫、コロナ第2波のラオス ▶ p.1
- はじめる・つながる・つくりだす ▶ p.2
- 「ラオスのこども」の仲間たち ▶ p.4
- メコンのほとり「癒」▶ p.4



\*写真の説明はp4をご覧ください。

## 緊迫、コロナ第2波のラオス

ラオスでは、2020年3月に初めての新型コロナウイルス感染者が確認され、以来、学校の一時閉鎖、4月から約1か月におよぶロックダウンを経て、入国規制や隔離政策なども実施し、2021年4月までコロナ累計感染者は40数人と、内陸国であるにも関わらず感染の抑え込みに成功していました。

それが、ラオス正月ごろを境に状況が一変したのです。

### 増え続ける感染者、昨年とは違う様相...

隣国からの入国者の中に感染者が含まれていて、その濃厚接触者から感染者が広がり始めました。4月中旬、ラオス正月で、人の移動や接触が増えたことも影響し、日ごとに感染者が増えていきました。これまでとは違い、ただならぬ状況になってきていることを誰もが感じ始めました。

そしてとうとう4月21日夕方、翌朝からヴィエンチャン都をロックダウンするとの発表がありました。ラオス事務所のスタッフは、図書館応用研修でヴィエンチャン県に出張中でしたが、やむなくヒンフープ中等学校での研修を延期し、慌てて首都ヴィエンチャンに戻りました。

その後、数日のうちに他県にもロックダウンが発令され、全国どここの県も行き来ができなくなりました。学校も一時閉鎖となり、子ども達は学期末の試験をまだ迎えられないままです。

累計感染者数は、4月下旬に100人を超え、5月初旬には瞬間的に1,000人を上回り、5月末時点では、早くも2,000人に到達しそうな勢いです。

### 長引くロックダウン、事務所もレッドゾーンに

当初5月5日までだったロックダウンは、5月20日まで、さらに6月4日までと延長が繰り返されています。ラオス事務所では、スタッフの人数がそれほど多くないこともあり、出勤を続けてきましたが、5月13日に事務所のあるサパンモー村で一家6人の感染者が出ました。政府は感染状況によって、村を赤・黄・緑色の3段階のゾーンに分けて取り締まる政策を打ち出し、22日にはサパンモー村がレッドゾーン（特別警戒区域）に指定されました。レッドゾーンでは、行き来が禁止され、ラオス事務所も全面的に在宅勤務に切り替えることを余儀なくされました。

ワクチン接種も進められています。当会は色々な県に出張し、先生・生徒たちと接する機会が多いことから、スタッフの多くが1回目の接種を済ませました。



(左)本日の感染者数(2021年5月23日)  
左は、新感染者数(19人)、右上が累計感染者数(1,801人)、下が累計死者数(2人)  
(右) ヴィエンチャン都内におけるレッドゾーン地域の一覧(5月22日発表) 上から16番目の Saphangmor 村がラオス事務所の所在地

### Red Zones in Vientiane Capital

Based on cases in the last 14 days (6-19 May)

District	Village (total cases from 6-9 May 2021)
Chanthabouly	Houayhong (8) Sildamduan (8) Nongping (5) Nongtha-Neua (0) Phontongsavat (2) Dongpalep (1) (case currently unlinked)
Sikhottabong	Tatthong (5)
Xaisettha	Fay (15) Chommanl-Kang (8) Khamsavath (8) Vlangchaleun (3) Chommanl-Tai (4) Nongbon (2) Nongliang (2) Phonxal (2) Saphangmor (2) <b>サパンモー村</b> Thatluang-Tai (2) Xok-Noy (1) (case currently unlinked) Nasangphal (1) (case currently unlinked)
Sisattanak	Saphanthong-Tai (8) Chomphet-Tai (2)
Xaithany	Xalsavang (7) Bolek (5) Khoksvital (3) Nongphagna (1) Xangkhou (2) Dontew (1) (case currently unlinked)
Hadxayfong	Hatxaykhaio (4)

www.laotiantimes.com

## 相次ぐ現地活動の延期、今できること

予定していた他県への出張がかなわない中、事務所では学校図書室への新規図書の登録作業や配送準備、紙芝居動画やFacebookページ写真の撮り溜め、次回研修の資料準備などをおこなってきました。在宅勤務中は、ラオス語翻訳シートの修正やデータ化、図書ラベルの作成、Facebook記事の執筆、SNSでの図書館ネットワークの状況把握など、これまで落ち着いてできなかった業務を手分けして進めます。現地での活動ができないことは、スタッフ一同とても歯痒い思いをしています。ロックダウンが解除された折には、すぐに地方での活動が効率的に再開できるよう、今のうちに備えておきたいと思っています。(渡邊淳子/ラオス事務所駐在)



在宅勤務前、本の配送準備などの仕事を急ぎます

ラオスのコロナの状況は  
HPのスタッフブログでも紹介しています  
<http://deknoylao.cocolog-nifty.com/blog/>



## 「ラオスのこども特別募金」第2弾のお願い

新型コロナウイルスの第2波の影響が続くラオス。昨年以上に長く続く休業要請や移動禁止の措置に、生活が厳しい状況が続いています。学校は一時閉鎖となり、再開の目処が立たない地域も多くあります。オンラインによる授業をおこなっている学校もありますが、各家庭で環境が整っているわけではなく、地方に行くほど困難な状況です。

例年5月の学年末の進級試験は、通常の学年は中止となりました。卒業年次にあたる学年のみ延期して実施することになりましたが、いつ実施できるかはわかりません。

先の見えない状況ですが、読み聞かせ動画や紙芝居動画の配信などを通して、ラオスの子どもたちを支える活動を継続していきたいと考えています。

日本のみなさまも、生活に様々な影響を受けていらっしゃると思います。そのような中、度重なるお願いで大変心苦しいのですが、暖かいご理解とご協力をどうかよろしくお願いいたします。

代表 チャンタソン・インタヴォン



## 「2020年冬募金」報告とお礼

2020年12月から2021年3月まで、冬募金「子どもが初めて出会う絵本にもう一度輝きを！」を実施しました。約90人の方々から、814,120円の寄付金をいただきました。目標額を達成することができ、心より御礼申し上げます。

今回のご寄付は、人気の幼児絵本「文字絵本1・2」「数字絵本」をオリジナルに近づけて改版し、ラオスの子ども達に届けるために、大切に活用いたします。

# はじめる・つながる・つくりだす [2021.2-2021.5]

## 詩集絵本『アタプーの詩』完成!



出来上がった本(全40ページ)。先生の詩2篇と生徒の絵23点を収録

2018年に発生したダムの決壊で被災したアタプー県のサナムサイ中等学校の副校長と生徒の作品を集めた詩集絵本『アタプーの詩』が、ついに完成しました。

2020年12月に当会の絵本づくりワークショップで生徒が描いた絵をスタッフ会議で選考し、詩のどのページにどの絵を組み合わせるか、検討を重ねました。2021年2月から4月に編集・印刷作業をおこないました。印刷会社へ出版専用のスキャナーが整わない中、原画の色彩を再現するため、オペレーターの人にも頑張ってもらい、色調補正などとても苦労しました。



選考会議の1コマ。詩と画の組み合わせやバランスも考えました

でき上がった本を携えて5月には再びサナムサイ郡を訪れ、小中学校で防災ワークショップをする予定でした。その矢先コロナのロックダウンで延期に。アタプーの先生や生徒たちに届けられるのは、もう少し先になりそうです。アタプーの人々の、心の糧となることを願っています。  
(2020年度公益信託大成建設自然・歴史環境基金助成金によるプロジェクト)

### 「アタプーの詩」は、日本でも購入できます

本が日本に到着し次第、BASEのサイトで販売します。(https://laostoehon.thebase.in/) ラオス語・英語を併記した本に、全編日本語を付け、挨拶文と制作レポートも加えてお届けします。



## 受章イベントでも絵本の力をアピール

当会代表のチャンタソンが、2018年にJICA理事長賞を、2020年には旭日双光章を受章したことを記念し、4月2日～3日、ヴィエンチャンのホアイホン職業訓練センター(こちらもチャンタソンが代表を務めています)でイベントを開催しました。日本大使館・岩本圭一公使、JICAラオス事務所・眞田明子次長、韓国大使をはじめラオス政府、国際NGO、私立学校の関係者など2日間で100人を超える方々に参加いただきました。

集まった幼稚園児、小学生にスタッフのチャンシーが絵本の読み聞かせをしたところ、みんな大喜び。もっと聞きたいというので、リクエストが多かったお化けの話を追加。しめくりは「おおきなかぶ」の折り紙をして子どもたちは大満足の面もちでした。

そんなやりとりを見ていた私立学校の先生から、図書室の教員の研修してほしいと要望が寄せられました。このイベントをきっかけに、ふだんはあまり接点のない人たちに、絵本の魅力、絵本と子どもをつなぐ図書室スタッフの大切さ、当会の活動などをアピールすることができました。



おおきなかぶをみんなでひっぱります

## ANT-Hiroshimaから平和を願う物語

原爆によって命を落とした少女さだこと平和を願う折り鶴の物語『おりづるの旅』150冊が、5月、広島NPO法人ANT-Hiroshimaから当会ラオス事務所へ届きました!ラオスで原爆展を開催し、この本のラオス語版制作を手がけた元青年海外協力隊員の花岡早織さんがANT-Hiroshimaと当会を繋いで実現しました。ラオス語の翻訳シートは、同会のボランティアのみなさんの手で貼られ、ラオス語絵本としてできあがりしました。

ラオスでは中学3年生の歴史の授業で原爆について学習します。当会がこれまで開設・支援してきた中等学校の図書館に届けるため、目下配送準備をしています。

この本を通じてラオスの子どもたちに、平和を願う気持ちが、おりづるの旅の輪が広がりますように。



ANT-Hiroshimaの活動はこちら <https://ant-hiroshima.org/index.html>

## ラオスと中継、ピーマイ・パーティ2021



4月24日、ピーマイ・パーティ2021をオンラインで開催しました。ピーマイとはラオスのお正月のこと。当会は毎年パーティを催し、ラオスの文化が身近に感じられる機会としています。2020年は新型コロナウイルス感染拡大

防止のため中止。2021年こそは会場できると可能性を探りましたが、難しいと判断、初のオンラインでのパーティとし、約30人の参加がありました。

ヴィエンチャンの事務所などつなぎ、コロナ禍でのピーマイ、図書活動などを紹介。そして、伝統料理をつくる様子などを中継しました(p4ラオスのこどもの仲間たちをご覧ください)。

参加したみなさんからは、「現地のスタッフと話せてよかった」「今まではできあがった料理しか知らなかったけれど、作り方の中継が興味深かった」「現地の今を知ることができた」、また「会えなかった友人と、1年ぶりに再会できた」などの声が寄せられました。対面型ではなくても楽しめる企画を準備し、新しいパーティの手法が開拓できたと感じています。

## オンラインで社会貢献、家族で絵本づくり



絵本を手にする参加者のみなさん

ラオス語絵本づくりイベントを企業の社会貢献活動の一環として続けている(株)ニコンでは、3月にイベントのオンライン説明会を開催し、社員のみなさん24人が参加しました。

当会スタッフの活動説明から開始。ラオスってどんなところ?にはじまり、子どもたちの元気な様子や図書活動を紹介しました。説明会があったことで、「ボランティアの背景や思いを知ることができ、活動の意義を踏まえて作業ができた」などの声がありました。

在宅で取り組めるようにしているため、子どもたちなど家族のみなさんも加わって、活動に広がりが生まれています。説明会に参加できなかった方々を含めると、59人が絵本づくりに取り組まれました。

当会では、日本語の絵本にラオス語翻訳シートを貼ってラオスに送る、「ラオス語絵本プロジェクト」への参加を広く呼びかけています。個人やグループでの参加、講演とセットにして学校や企業でも実施できます。お問い合わせください。

## 「ラオスのこども」の仲間たち

### オンラインでパイヤサラダを披露

横山真紀子さん(ボランティア/ヴィエンチャン在住)

ラオスとの出会いは1999年企業主催の「絵本作りをしてみませんか」という新聞公募。日本語の絵本に翻訳された用紙を切り貼りし、絵本として完成させるというものでした。そのパートナーが「ラオスのこどもに絵本を送る会」(現ラオスのこども)だったので。それまでラオスという国があることすら知りませんでした。子どもの本といえば教科書ぐらいということを知り、ワクワクする絵本の世界を感じられるといいなと願いながら和気あいあいと次々とラオス語絵本は完成していきました。

何かお手伝いできればと、ボランティアとして初参加したのが2001年ピーマイ・パーティ。「日本で唯一、おいしい本格的なラオス料理を食べることができる」が売り。参加した感想は「このグループは何? ケータリング屋?」でした。チャンタソンさんを筆頭にボランティア・ラオス人留学生・スタッフで、何と! 150~200人分の料理を全て作り上げてしまうんです!! ひたすらグレープフルーツの皮を削っていたのを覚えています。自称食販部門ねこの手要員として各種イベントに食以外にも参加してきました。

現在はヴィエンチャン・ホアイホン村にある私立保育園・幼稚園・小学校に勤務しています。

今年のオンライン・ピーマイ・パーティでは急きょラオス料理の紹介をすることに。

何がいいかな? お正月料理ってなに?と、あらためて仕事仲間にインタビューして、当日、料理は学校給食担当のトゥイさん、ネット配信は石口毅さんに協力いただき、パイヤサラダづくりを実況中継しました。バツバツではありましたが久々に参加でき、離れていても時間を共有できるのは嬉しく思いました。



### 表紙の写真

2020年12月、アタプー県ミットサムバン小学校の図書室視察での子どもたちのようす。その年3月に訪問したときにはコロナ第1波で登校できなかつた子どもたちが、今回は集まってくれました。校庭で図書室のテーマソング「Hello my friend」を踊っています。この曲、みんなで踊るととっても楽しいよねえ〜。後ろに見えているのは、「アタプーの詩」の裏表紙にも描かれた山、プータパーク(プーはラオス語で山、タパークはオーイ族の言葉で、この山のふもとの村の名前)。コロナ第2波で、学校は再び一時閉鎖。早くみんなの笑顔に会いたいな。

### 特定非営利活動法人ラオスのこども

組織の理念「ラオスのこども」は、公正で平和な社会づくりに貢献することを目的として、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択できるよう、日本とラオスの人々が協働しながら、読書に親しむ環境をつくります。

### ラオスのこども通信 80号

2021年6月発行 代表:チャンタソン・インタヴォン 編集人:森透  
発行: Action with Lao Children / Deknoylao  
(認定)特定非営利活動法人 ラオスのこども  
〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12 ミキハイツ303  
TEL/FAX 03-3755-1603  
e-mail: alctk@deknoylao.net  
http://deknoylao.net  
都営地下鉄浅草線西馬込南口下車徒歩7分  
郵便振替 00140-6-462494



5月末には卒園・卒業式の予定でしたが、ロックダウンでただ今休校中。早く解除になり子どもたちの元気な声が校舎内に響きまようように。まもなくこちらは雨季に入ります。

### 2か所の図書室を開設へ! クラウドファンディング

この1年、様々なイベントを中止せざるを得なくなり、収入が激減しています。財政難により、次年度の学校図書室の開設が厳しい状況となりました。

そこで4月から5月にかけてクラウドファンディングで応援をお願いしたところ、53人の方から合計80万4,000円の支援をいただきました。これによって計画していたカムワン県の2つの学校で図書室が開設できることになりました。

本当にありがとうございます。詳しい活動報告は当会ホームページや、こちらからご覧いただけます。



## メコンのほitori癒

### コロナ禍で大盛況

ラオスも新型コロナウイルスのために、外出ができなくなり、職場に出勤できなくなった人、商売ができなくなって店を閉めなければならなくなった人など、人々の生活に様々な影響がでています。

そんな中で、ちょっと意外な商売が繁盛しています。それは植木屋さん。皆がステイホームとなる中で、家で庭に花を植えたり、畑を耕して、実のなる木を植えたりするため、植木や庭木の販売が人気となっています。

色々な木や花の苗はもちろん、植木用腐葉土、牛糞、花を植えるココナツの皮のチップや植木鉢がたくさん売られています。最近では、Facebookでも毎日のように、観賞用の木や花木の苗



蘭の花をおろしに来た業者の車と、蘭の花を植えるココナツの皮のチップや土に混ぜるもみの炭を買いに来た客。店先では、ドリアン、パイナップルや砂糖キビジュースなども売っている

が宣伝されて、他県からも取り寄せられています。暗いニュースが多い中で、美しい花を見て、美味しい実を食べ、心も身体も癒やされたいのはどこも同じですね。(チャンタソン・インタヴォン)